

## 研究会開催通知

(昭和58年12月15日～昭和59年1月31日)

研究会	日	時	会場	備考
計算機システムの制御と評価	12月2日(金)	10:00～17:00	機械振興会館	前号参照
数値解析	12月9日(金)	13:30～17:00	同上	同上
記号処理	12月16日(金)	13:00～17:20	同上	同上
日本文入力方式	1月18日(水)	13:30～17:00	同上	下記参照
ソフトウェア基礎論	1月20日(金)	13:30～17:00	武蔵野通研	同上
コンピュータビジョン	1月25日(水)	13:00～17:15	阪大	同上
知識工学と人工知能	1月26日(木)	10:00～17:00	同上	同上
自然言語処理	1月26日(木)	10:30～16:00	電総研	同上
データベース・システム	1月26日(木)	13:30～17:00	機械振興会館	同上

### ◆ 第13回 日本文入力方式研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 高橋秀俊, 幹事: 坂下善彦, 山田尚勇)

**日時** 昭和59年1月18日(水) 午後1時半～5時

**会場** 機械振興会館 地下3階1号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 等々力-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]

**議題** (1) 各種日本語入力方式における入力速度予測モデルの検討

中山 剛, 黒須正明(日立・中研)

[概要] 日本文入力にともなう鍵盤打鍵, コード学習, 入力操作変更, 誤変換訂正過程などのモデル化とそれによる入力速度の予測.

(2) 日本文入力方式として望ましい条件とその実現具体例

森田正典(日電)

[概要] 日本文入力方式として望ましい条件として, キー数, その配列の規則性, 所要打鍵数, 左右手交互率, 肉体的疲労および精神的負担の6項目を考え, これらを総合しての実現具体例を説明する.

(3) 二角併音方式による日本文入力システム: CHAMPS

宮沢信一郎, 駒田友彦(芙蓉情報センター)

[概要] 新規の入力方式である二角併音方式による日本文の効率的な入力システムについて述べる.

(4) べた書きかな漢字変換の一方式について

平塚良治, 八田 敏, 津田 貴(沖電気)

[概要] べたで入力された文字列から頻度の高い文字列を取り出しその文字列と

文節の関係をチェックし文節末を推定する.

## ◆ 第7回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 淵 一博, 幹事: 二村良彦, 雨宮真人)

- 日時 昭和59年1月20日(金)午後1時半~5時
- 会場 電電公社武蔵野電気通信研究所 6号館202B会議室  
〔武蔵野市緑町 3-9-11, 国鉄中央線三鷹駅北口下車, 関東バス(1番乗場): 北裏行(便多数)武蔵野市役所前下車徒歩5分, Tel. 0422(59)2133〕
- 議題 (1) Prolog における functor の役割りについて  
渡辺 治(東工大・理)  
〔概要〕 Prolog では Skolem Function (functor) がその本来の役割りを果していない. その理由, 影響, 解決案について述べる.
- (2) 設計計算の範例と ADL における実現法について  
長澤 勲, 古川由美子, 荒牧重登(九大)  
〔概要〕 電子回路や機械設計等で行われている設計計算の範例をあげ, 筆者らが開発した設計システム記述言語 ADL における実現法について述べる.
- (3) POPS による構文解析と Chart Parser について  
平川秀樹, 古川康一(ICOT)  
〔概要〕 本報告では Prolog の OR 並列処理系 POPS による DCG プログラムの実行と Chart Parser を比較し, 効率に関する検討を行う.
- (4) 関数型言語 VULCAN の処理系とその評価  
高野明彦, 山野紘一(日立・シ研)  
〔概要〕 拡張した結合子表現を用いた関数型言語 VULCAN 処理系の概要およびその評価について述べる.
- (5) 見学 武蔵野通研(基礎研究部)の見学を予定しています.

## ◆ 第28回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 辻 三郎, 幹事: 木戸出正継, 杉原厚吉)

- 日時 昭和59年1月25日(水)午後1時~5時15分
- 会場 大阪大学基礎工学部 情報ゼミナール室(2階)  
〔豊中市待兼山町 1-1, 国鉄: 大阪下車, 乗換 阪急宝塚線: 石橋下車, 東南徒歩18分, または大阪空港よりタクシー3km, Tel. 06 (844) 1151〕
- 議題 (1) コンピュータ創成構造パースと背景写真のモンタージュ  
中前栄八郎, 岡本貴至(広大・工), 西田友是(福山大・工), 榊野 護(尾道工高), 福田真典(広島市工高)  
〔概要〕 新建造物の景観への影響を評価するための背景写真と計算機創生画像との合成法について報告する.
- (2) 画像分類のためのプロダクションシステム・インタプリタの開発  
渡辺久晃, 柳原圭雄, 田村進一(阪大・基礎工), 田中 稔(広大・工)  
〔概要〕 画像分類では, 入力画像に対してその画像がもつ特徴から意味づけを行う. その意味づけの段階でのあいまいさを考慮した PS インタプリタの

開発を行った。

(3) DIA-Expert システム構造処理部の開発

坂上勝彦, 田村秀行 (電総研)

〔概要〕 画像処理機能の系列を入力すると, データ構造の整合やパラメータの過不足等を検証し, 実行モジュールを発生する DIA-Expert 構造処理部について報告する。

(4) いがぐり表現像から深さ情報の抽出 池内克史 (電総研)

〔概要〕 Marr ステレオによる境界線上における深さ情報と濃淡情報とから2枚のいがぐり表現像を得る。これから繰返し法によって領域内での深さ情報を再構成する手法について述べる。

(5) MIT におけるコンピュータビジョン研究の現状

長田茂美 (富士通研), 池内克史 (電総研)

〔概要〕 米国 MIT 人工知能研究所におけるコンピュータビジョン研究の現状を紹介する。

(6) 第8回人工知能国際会議コンピュータビジョン部門報告

北橋忠宏 (豊橋技科大), 大島正毅, 池内克史 (電総研),

浅田 稔, 谷内田正彦 (阪大・基礎工)

〔概要〕 本年の8月8日より12日まで西独のカルスルーエで第8回人工知能国際会議が開催された。そのうちコンピュータビジョン分野の報告を行う。

◆ 第33回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 志村正道, 幹事: 石塚 満)

日時 昭和59年1月26日(木) 午前10時~午後5時

会場 大阪大学基礎工学部 国際棟 (所在地は前記参照)

議題 (1) 前方後円墳時期推定システム RAPS による時期推定実験

小沢一雅 (大阪電通大)

〔概要〕 RAPS の構築と時期推定実験および既知古墳サンプルを用いた学習過程の実験的検討を述べる。

(2) データベース論理設計支援エキスパートシステム

小林 仁, 溝口理一郎, 豊田順一, 角所 収 (阪大・産研)

磯本征雄 (阪大・大型計算機センター)

〔概要〕 プロログを用いてインプリメント中であるデータベースの論理設計を支援するシステムの概要を報告する。

(3) 物質とその変化に関する情報モデル 岡田 孝 (関学大)

〔概要〕 物質情報を取り扱う知識ベースを考える場合に, 物質名を自然言語の文と対応させるモデルを提案する。

(4) プロトタイプ知識体系の考えを用いた知識ベース管理

唐沢 博, 中村 孝, 田村進一 (阪大・基礎工)

〔概要〕 ユーザ定義の知識ベースを管理するための知識の扱いに関する知識 (メタ知識) の体系を提案する。

(5) フレキシブル知識表現システムとその応用

桑原和宏, 石塚 満 (東大・生研)

〔概要〕 フレームにオブジェクト的な考え方を取り入れた知識表現を開発した。耐震診断のエキスパートシステムを構築している。

(6) グラフ表現を用いたツール選択コンサルテーション・システム

石田耕三 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 ツールとツールの応用分野に関する知識を統合させるコンサルテーションシステムについて述べる。

(7) ロボット言語における動作知識獲得に関する一手法

田口 潤 (兵庫県立工業試験場)

〔概要〕 すでに定義されている命令を用いて新しい命令 (動作命令) を定義することによりプログラムを作成していく方式を持ったロボット言語を提案する。

◆ 第41回 自然言語処理研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 長尾 真, 幹事: 田中穂積, 辻井潤一, 野村浩郷)

日時 昭和59年1月26日(木) 午前10時半~午後4時

会場 電子技術総合研究所 D棟 814号大会議室

〔茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4, 国鉄: 常磐線荒川沖下車 (上野発 8:45 (普通) 一荒川沖着 9:46) バス: 関東鉄道バス筑波大中央行, 並木2丁目下車 (駅前発 9:52, 約10分乗車), 徒歩約5分, Tel. 0298(54)5423〕

議題 (1) 拡張 LINGOL を用いた日本語の概念分析

井佐原均, 石崎 俊 (電総研)

〔概要〕 拡張 LINGOL を用いて日本語の新聞記事を解析した。ここで従来の SRL を用いたユニット型の意味記述と MOP を用いた意味記述との関係を考察する。

(2) 日本語文における格の種類についての考察 池田尚志 (電総研)

〔概要〕 格の種類についてはいろいろの提案がなされているが本報告では、日本語文における格の種類について、基本文形との関連、変形との関連を含めて考察する。

(3) 日本語構文解析システム PEARL について

堤 豊, 中川聖一 (豊橋技科大)

〔概要〕 自然言語の一般的な構文解析システムを目標として入出力形式が柔軟な構文解析システム開発用言語 PEARL を開発した。

(4) 語と語の関係について

田中康仁 (姫路短大)

〔概要〕 概念と概念の結合関係データを大量に集める方法, 結合関係, 利用方法について述べる。

(5) オンライン翻訳の一つのアプローチ

有田英一, 福島正俊 (三菱電機・中研)

〔概要〕 例文とその訳文を利用することにより高品質の英文を生成する会話型の日英翻訳援助システムについて述べる。

- (6) 確率的言語処理へのアプローチ 藤崎哲之助 (日本 IBM)  
〔概要〕 英語の確率的構文解析の試みの報告を中心に、言語処理への同方式の導入の可能性、効果、今後の課題などについて述べる。

◆ 第 39 回 データベース・システム研究会 (発表件数：4 件)

(主査：酒井博敬，幹事：有澤 博，吉田郁三)

- 日 時 昭和 59 年 1 月 26 日 (木) 午後 1 時半～5 時  
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)  
議 題 (1) データベース・マシン IDM とそれを利用した Acebase システムの概要  
滝沢光樹 (インテック)  
〔概要〕 米国 Britton Lee 社製データベース・マシン IDM の機能と、それを利用した Acebase システムの概要を述べる。  
(2) リレーショナル・データベースマシン FREND  
疋田定幸，川上 英，岸田 巧，羽生田博美 (沖電気)  
〔概要〕 パーソナルコンピュータを適応領域とするデータベースマシン FREND の機能，処理方式および処理能力を報告する。  
(3) データ構造の動的変更が可能なデータベース管理システム  
小柳和子，高橋光吉 (日立 SK)  
〔概要〕 データベースの構造を動的に変更するために導入した構造操作言語の機能，およびデータ構造の変更にもなつて必要となるデータ定義，データ値，応用プログラムの一貫性の管理について述べる。  
(4) リレーショナルデータベース RAPPORT の機能と応用  
中山昇一郎 (シーイーシー)  
〔概要〕 リレーショナルデータベースと RAPPORT それを使った事例を紹介する。

◆ 記号処理研究会

第 29 回 研究会を下記のとおり開催する予定です。

日 時 昭和 59 年 3 月 12 日 (月)  
会 場 理化学研究所・レーザ棟会議室

発表申込方法 発表を希望される方は，次の①～④を記入した申込書 (書式は自由です) を学会事務局研究会係宛お送り下さい。

①タイトル ②氏名 ③論文概要 (50 字以内) ④連絡先 (正確な住所と電話番号)。締切は昭和 58 年 12 月 28 日です。

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

第 44 回 計算機アーキテクチャ研究会を下記の要領で開催いたします。今回の特集テーマは、「コマーシャル・マシンのアーキテクチャ」で，商用計算機 (全体またはその一部) のアーキテクチャを中心に考えています。(特集テーマ以外の発表も歓迎します。) 発表ご希望の方は，1 月 5 日 (木) までに学会事務局研究会係までお申し込み下さい。

日 時 昭和 59 年 3 月 7 日 (水) 午後 (予定)  
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

## 58 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の 納入にご協力ください

去る 11 月下旬に、本年度の会費、購読費未納の方に、郵便振替用紙によって、標記のお願いをいたしました。

ご承知のとおり、事務局多年の念願であった事務の EDP 化がようやく完了し、会費と購読費を一括して定期に納入を願うことになりました。例年と違い、今回からある意味では機械的（システムの）となり、戸惑う方もおありと思いますが、事務管理の能率化は、会員の方がたのご協力のいかにかかるところが大きいことをご了承いただき、未納の方は、一日も早くご納入くださいますよう、よろしくお願いいたします。

## 会員名簿（昭和 58 年度）の予約について

前号本欄でお知らせしたとおり、明年 3 月末を目途に 4 年振りの会員名簿（B 5 判、約 500 ページ）を発行いたします。

つきましては、会員特価にて下記により予約を受付けますので、早めにお申込みください。なお、会員以外の方は予約できません。

### 記

価 格	会員予約特価 2,600 円（会員定価 4,000 円）（送料込）。
申込締切	昭和 59 年 3 月 16 日（金）
申込方法	次号本欄綴込みの郵便振替用紙にて、ご送金ください。

## 本会協賛の行事案内

	（開催期日・場所）	（主催・問合せ先）
第 4 回シミュレーション・ テクノロジー・コンファレン ス	昭和 59 年 6 月 19 日（火） ～20 日（水） 大阪科学技術センター	日本シミュレーション学会 Tel. 03 (352) 2231 (内 561)

## 第 28 回 全国大会（昭和 59 年前期）概要および論文集予約

- 開催期日** 昭和 59 年 3 月 13 日(火)～15 日(木)
- 会場** 電気通信大学（調布市調布ヶ丘）
- 一般参加費** 大会当日会場にて受付けます（登壇論文発表者以外）。  
会 員 1,000 円（賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます）。  
非会員 2,000 円
- 講演参加費** 登壇発表者は原稿提出と同時に納入してください（原稿用紙は 12 月下旬に送付します。原稿締切 59 年 1 月 23 日）。  
7,000 円（論文集 1 部，別刷 50 部を含む）。ただし，1 人で 2 件以上登壇発表される方は，2 件目から 1 件ごとに 2,000 円を追加請求いたします。  
なお，次の第 29 回全国大会から，登壇発表は原則として 1 人 1 件となりますので，ご注意ください。
- 論文集予約** 予約を原則とします。本号綴込みの申込書により，59 年 2 月 24 日までに事務局へ申込みください。  
予約価 5,000 円（定価 6,000 円）  
（予約者以外にお頒けできるのは，大会当日残部のある場合に限りです）。
- プログラム** 詳細は 2 月号に掲載します。登壇論文発表者はとくにご注意ください。
- 特別講演** （3 月 13 日 10：00～11：30）  
西ドイツから見た日本像——先端技術とアジア的混迷のはざま——  
西尾 幹二（電通大）
- 招待講演** （3 月 14 日 12：30～13：30）  
バイオリン“狂奏曲” 石川 二郎（東工大名誉教授）
- パネル討論会** （2 件）  
（3 月 13 日 12：30～14：45）  
情報処理におけるモデリング——知識ベース，データベース，アブストラクトデータタイプ，CAD/CAM およびシミュレーションの立場より——  
（司会）大須賀節雄（東 大）  
（3 月 15 日 12：30～14：45）  
システム性能評価 （司会）小林 久志（日本アイ・ビー・エム）
- 一般セッション** （論文発表申込 800 件）

## 論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 58 年度論文賞の候補論文を下記によりご推薦くださいますようお願いいたします。

### 論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数  
昭和 57 年 10 月から 58 年 9 月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 23, No. 6～Vol. 24, No. 5)および「Journal of Information Processing」(Vol. 5, No. 4～Vol. 6, No. 3)に発表された論文の中から 1 編。
2. 推薦資格  
本会正会員に限ります。
3. 締切日  
昭和 59 年 1 月 31 日(火)

### 表彰規程 (抜粋)

#### 第 2 章 論文賞

1. 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
2. 表彰する論文は、原則として毎年 4 編とするが、編数は事情により変更することができる。
3. 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。
4. 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
5. 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
6. 論文賞は、賞状および賞金とする。
7. 賞金は、論文一編につき 30,000 円とする。

### 推薦方法

官製はがきに、推薦する論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名をもれなく記入のうえ、本会論文賞係宛お送り下さい。



## 支 部 だ よ り

### 中部支部専門講習会 (共催)

——情報サービス・ネットワーク専門講習会——

- 期 日** 昭和 59 年 2 月 8 日(水), 9 日(木)
- 会 場** 名古屋通信ビル 2 階ホール (名古屋市中区千代田 2-15-8).
- 参加費** 会員 8,000 円 (学生 5,000 円), 非会員 11,000 円  
テキストのみ 5,000 円 (送料込).
- 定 員** 120 名 (定員に達し次第締切ります).
- 申込方法** はがきに「情報サービス・ネットワーク専門講習会申込み」と標記し, ①住所, 氏名 ②所属学会, 会員種別 (または会員外), ③勤務先, 連絡先 (Tel.), ④送金額を記入して下記あてお申込みください. また, 同時に参加費を銀行振込か現金書留にて, ご送金ください.  
○銀行振込口座 (普通預金) 第一勧銀 大須支店 1003716  
口座名義 電子通信学会東海支部 支部長 井深次郎
- 申 込 先** 〒460 名古屋市中区大須 4-9-60 東海電気通信局施設部調査課内  
電子通信学会東海支部 Tel. 052 (291) 2451
- 共 催** 電子通信学会本部, 同東海支部, 情報処理学会中部支部ほか
- プログラム** 2 月 8 日(水)
- ・総 論 (9:30~10:00) 福村 晃夫 (名 大)
  - ・LAN の機能と評価 (10:10~12:10) 斎藤 忠夫 (東 大)
  - ・VAN 概説 (13:10~14:20) 鶴田 清治 (I B M)
  - ・INS 構想とその技術 (14:30~16:30) 伊藤 宏 (電 電)
- 2 月 9 日(木)
- ・CATV の現状と将来 (9:30~10:50) 石渡喜十郎 (郵政省)
  - ・OA の進展と OKINET-2000 シリーズ (11:00~12:10) 松下 温 (沖電気)
  - ・オフィス情報システムの構築 (13:10~14:20) 金森 吾一 (日 電)
  - ・Σネットワークおよびその応用事例 (14:30~15:40) 原 躬千夫 (日 立)
  - ・光 LAN の現状と展望 (15:50~17:00) 八星 禮剛 (富士通)

## 支 部 だ よ り

### 九州支部講演会

日 時 昭和 58 年 12 月 15 日(木) 13 : 30~15 : 30  
場 所 九州大学工学部情報工学科 S 414 講義室 ( 4 階)  
講 演 者 上野 晴樹 (東京電機大学理工学部)  
演 題 知識工学の現状と将来  
参 加 費 無料 (参加資格は問いません).

### 九州支部見学会

日 時 昭和 59 年 1 月 24 日(火) 午後  
見学場所 新日鐵八幡製鐵所, 製鋼熱延工場  
参 加 費 無料  
集合場所・時間 参加申込者に直接 1 月 10 日頃にご案内します。  
申込方法 所定の申込み書または, はがきに「新日鐵八幡製鐵所見学会申込み書」と標記し, ①氏名, ②住所, ③連絡先 (Tel.) を記入のうえ, 下記あてお申込みください。  
申 込 先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九大中央計数施設内  
情報処理学会九州支部 Tel. 092 (641) 1101 (内 5986)

## 欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

### 1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

### 2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文

### 3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

### 4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

### 5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

### 6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000